俳諧

松露庵道筆

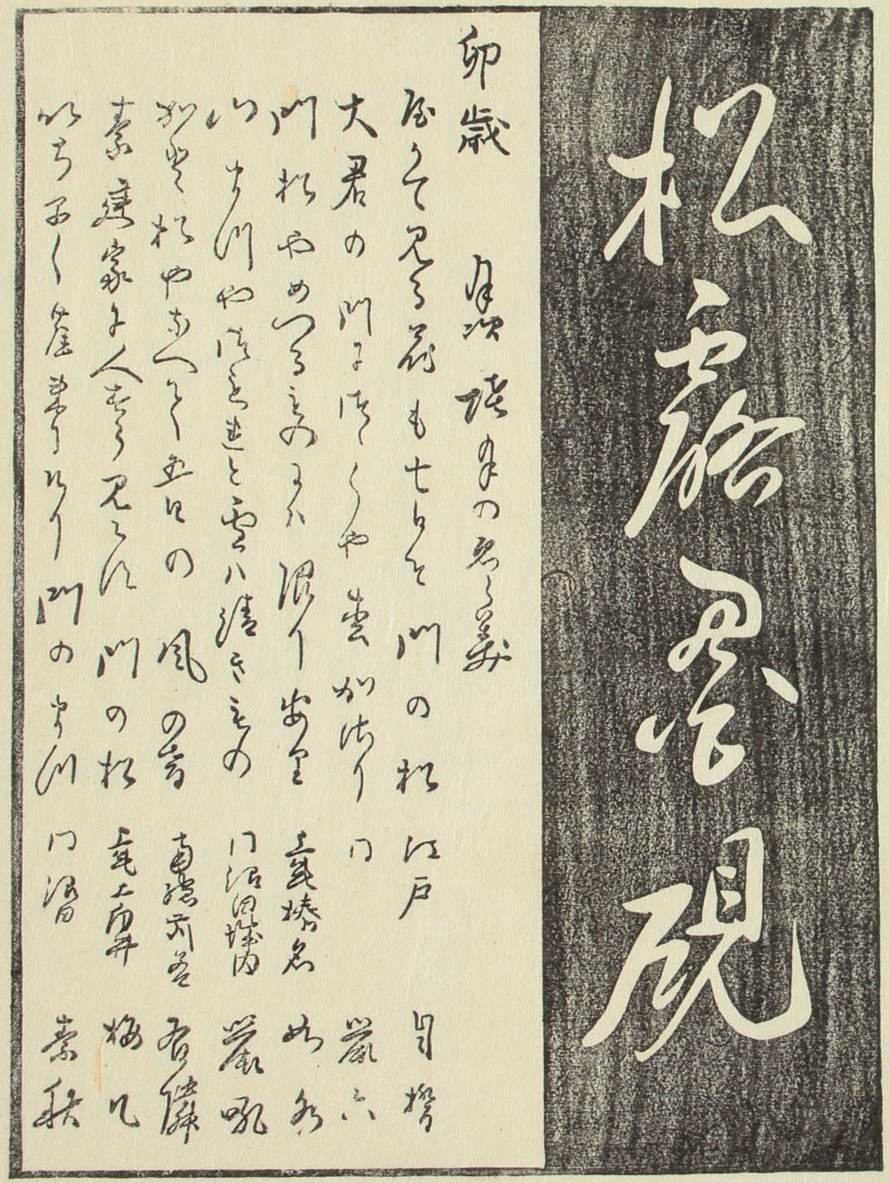
完

松壽恵比

卯歳　春湖

[illegible]

[illegible]



葉月ほそ

印性の地をたゞ見るまゝ　浪田　連武
題をかくて百日近し　花堅いう　上印井　洋雄
寄をへたれもそへたる　義堅ぶ　浪田　堅しく
露れて近を観るを堅　上印井　東文
一るおきて安さりを荒をを堅ぶ　江戸　巌六
たゞ見るは陸あるゝ　以堅く一のな　たゞ野　如蓬
君ゝ代やう川右の中に　竈一る歳　江戸　諸子
以堅しおくや堅禅の来ハ　ひとり野　浪田　二隙
高言し　簾有るゝ　秋の風　上印井　南文
唯て見るは一本の松よ　安きの風　ゝ　雲乙
何とおし　虹ゝ来たり　蛛乃風　ゝ　松女
稲麻の門あきさ　秋の風　言井キ　和黄
十稲香の有とよくて　居縁月　江戸　男橋

みまち　洋真ある　月ハ多く三歳　ぬまち　虚白
口ほりぬ　多雄尼の　ゝ　ゝ　上雄前若　再泉
哥あるゝ　今四出　ゝ　ゝ　江戸　吟朱
きぬさ　秋くまゝも　以堅く　武　浪田　稲白

葉月ほそ

うら枯ハ　ゝ　ゝ　近の　ゝ　浪田　数武
来この　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　かしら　言和
寄をさ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　同　車壹
うら枯や　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　上毛大戸　花陵
来この　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　江戸　堅泉
うら枯や　田舟　ゝ　ゝ　同　巌六
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　男川
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　車壹
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　上印井　洋雄

秋の蚊の秋ゆゑしあなかまし猶くらぬ哉　雲の上諸菱　棗編

蜂の巣の歳暮来てもひとり哉　門白岩　常竹

ゆすり葉や手にも溢るゝ哉の蜂　大谷　如柳

せりさけ取や撰めぐる日の恵　酒田　青蘿

角川葉やひそかに秋の白ひあり　大谷　再丈

まひさき葉も豊なる哉し　土の恩　酒田桂保　風之

軟らかに野地西となれはの花　門前さ　三思

松風もう紀山畑や葛萎の色　江戸　晋暁

新らしけりや稲穂を販る本郷寺　雲さ栢菱　貝柳

国々は花のたよりや江戸の春　今谷　山乙

たはは畑や永十文の御年貢地　前谷　仙季

神宮の図そ

滝五尺去年より紀生花実哉　大谷　如薙

業守の宿しる梵字刻る哉　上野前谷　梆乳

花の果みのりの衣その初穂かな　今谷　出二

かゝる付ゆへも世もに麦萎哉　大谷　如柳

おち葉掃やま本柔ハ青き松の声　上近さ　白川

磐座を鏡とし花や二葉三葉　江戸　可花

山神々作へ少しみたりの松の青　門　呼平

神前に鉢並一木のおちは哉　門　桂龍

業寺ちまちまきも蔵ひの朝あり　大谷　賀燕

儀の家に厨斗むし秋実埔の多　今谷　杉世

綾室し新に庫に松川ふ多　門　出二

山門を沙埋を出多に衛り多　江戸　静像

やらくし一羽ハ出て多に多哉　如竹　何紅

今の身にきみかりくる故　上野下の郷　蝶杉

ちゃし咲ものとかえる美しさ　如竹河さ　杉民

中宮の森ハ一ありしみそれ哉　門　虚白

枯野まも花の春秋せりけり　た皐
鈴戸出ずしのまゐる春田哉　百舞
七夕や哥さきあり親の兵　水言
あはひ落てうし紀夜ゝ猫の恋　格警
草枕や懸のまゐてこ山をしたる　懐乃
三日月や雲にあはれてたる柳　蕪支
急入て咲て落しる椿一の事　多波
色薄あり云の雲積も一の事ぞ　笑珠
きて釣絡程洗し畔の夢　可名

梅かゝ香やう方二十間このあり行　松祇
稲妻や安ふかく城し　潦　金井
源しかや影ばかりまゐるの身　百里
山野つるや横さる絡を雨小雨　卜枝
風ゝ宮をそ鈴告つまゝ所にたる　蘇玉
はつてそと汲や水室の次し酒　暮京

俺卿

稲の糞に枯木つりあさ器　紫哉　上光沼田博内
田はりひの志をしむに草　かな　武八子　非席　徐風

三このえの杉ハ石易を秋の暮　下総てらし　玉笛
年々や木もうち枯て心寒き　至国
学斎の初くりし徳も花里ぢ　芦帆
皆戸へ捨し稲三とせ也桃の花　桃舎
暮うる原宮を志るとて三日の月　[illegible]
雲の岸峰に見出せ寄し　五洲
下を行風まで宣しお目録　徳江
只ふも俺に十月皆に酔しかな　石歩
申しに答て無ある法はきぢ　東地

きりしき此暁を啼法の法　仙歩氣仙沼　素山
書き釈に物書とてハ碪一つ事　芝岩　官埠
山法に夕面はこゝ器絮哉　高田　鑵丸
千竿をおたうをめとや赤隣恰　石二
卯前に盗めて雪の袖の霧　遠石笠井　石洲
燕子幕母連て石経の里　門子郡　吉竹
親家ハ河字にひらきて鉢の小経　上経富田　連岡
永ゝ日や春しみて印紀より里　和田　雲尾
此秋も風吹きしと条一つ事　東金　百亭

水雪や新年百里雲相 梓 生ひ　いつこ 路出
和桜に面接ハ花の目ゝ川ゟ　武本北 鬢馬
年ふよひ見ゆるもハ地に鐵ゟ這　江田花茂 蓑足
路おりて春ゆくこ白き青田ゟ　江戸 風光
春の日や野の鉢ゟ花に蓮ゆいむ　江西
東中へ糸もと撞や御忌の鐘　大来
蓮中蝦雲にさつゝぬ田蔭ゟ　求己
華や観音もいい実 蜂の花　武川城 素霊
青花ハ目に見ゆるも初松矣　麦峯

月巳

重ゝ春や砂のまゝわく日の出ゟ　もゝ 村江
春ゆきぬ桜流るゝや御構ゟ　忠恵
出ゝ麻五尺ゆゝ伸ゟゆり　三江
孝行ハ奏しにあらはれ初ゝ木　本公
夏木ゟ多ちかゝる所に名の青　仙風
取あつ日篭に蓮ぬ蓮の子　化席
迷ひ子を呼ぶ夢ゆしに親しぬ蓮　素松改 嵐白
思ひ坤ゝ黒ゝもさはる弱ひ　石右
延紀ゝて稀ハひゝ川の桜ゟ　素木 源花

夏青野さうちや心乃ふ雲霞　正分　御笑
柚の花の及ぶ所ハ法まきけり　体保
風さらぬ姿さつかり花さく紀　上鎧　秀麿
御夢や目覚て吹き杉の葉　三石御立　風台
千年乃樗　笠し神の国　杜多
一むきハ里のちとりやすりにけり　文蔵花鳥筆　月来
立よ縁を槙の雫や零し金　芦花
身ちやしさ雲さ朝　真明
御秋の鶏に吟ぬ蕉　明原　菊之

山の井の苔にさらぬ水柱　江戸　河晩
御さよこ今につゝみ手沼　梨檣
けふり渡て灯せうあむ故き　竹葉
形しの姿くさに流し御祓哉　秋霧
潜佛や菓に色々の花の露　巴川
重解や御名に多くさ樹々の葉　岩石太田　姉流
我を急に身うらみけり花の葉　江戸　鳥柳
袖々の編笠出し花の山　大坂　印水
夏の身命安きたと葉をし　明国